

# 交野市教委 ニュース

## 第123号（令和2年1月6日発行）

### 小・中学校の先生がともに授業をつくる

#### ～交野が原学園 公開授業の取組み～

昨年度交野が原学園は、交野市小中一貫学園構想事業モデル校区として、各教科及び外国語活動による市内公開研究授業を行いました。今年度もその流れを継続し、2学期を中心に学園内での公開授業を行いました。第一中学校・交野小学校・長宝寺小学校の先生が、ともに春から授業を構想し、検討を重ね、当日の授業に臨み、ふりかえりを行っていました。今回はその中の、理科・国語・体育の授業を紹介します。

#### 第一中学校2年生 理科 「だ液にはデンプンを分解するはたらきがあることを学ぶ」～消化と吸収～

これまでに生徒たちは、昆虫のからだのつくりについて（小3）、ヒトのからだの仕組みや器官について（小4・小6）学習してきました。これらを思い出しながら、中学2年生では「動物のからだのつくりとはたらき」についてさらに詳しく学びます。この日は、だ液にはデンプンを分解するという働きがあることについて検証していく授業です。

水とデンプン溶液、だ液とデンプン溶液の入った2本の試験管を40℃のお湯の中に入れ、あたためます。そして両方の試験管にヨウ素液を加え、色の変化によってデンプンの有無を確認します。ヨウ素液は小学校でも実験で使用しているため、その復習も兼ねつつ実験は進みます。そして、だ液のはたらきによって分解されたデンプンは麦芽糖となることも学びました。

小学校で培われる知識や技能が中学校での発展的な学びへどのようにつながっていくかがよくわかる1時間でした。



#### 交野小学校5年生 国語科 「心に響いたお話を鳩<sup>ハート</sup> 充実！カードに書いて推薦しよう」

「あたえられた条件（目的）に沿って」文章を書くということは、本市の子どもたちに身に付けてほしい言語活用の1つであり、継続した学習活動の積み重ねにより、培っていくことができます。

今回の学習は、教科書教材「大造じいさんとガン」の作者である椋鳩十の作品の中から、1番好きな作品のあらすじやいちおしの理由などを「ハート！充実カード」に書いてまとめ、推薦するというものです。

この日は、自分の選んだ作品の中の「書きぶり」に着目し、心に響いた叙述の紹介とその推薦理由を書き、それを同じ作品を選んだ友だちどうして交流するというグループ活動を行っていました。

互いに推薦理由を伝え合うことにより、それがより確かなものになったり、逆にさらに悩んで推敲し直したり…と、子どもたちはグループの中で深い学び合いができていました。できあがったカードには一人ひとりの作品に対する「思い（ハート）」が込められていました。そしてそれは、読んだ人たちの「心（ハート）」に十分届いたことでしょう。



#### 長宝寺小学校2年生 体育科 「跳び箱を使った運動遊び」

小学校から中学校まで継続して取り組まれている跳び箱運動。苦手意識を持っている子どもではないでしょうか。

今回の学習は、跳び箱運動に必要な基本的な動きを「あそび」の中で楽しく習得し、開脚とびにつなげていくことが目標です。この日の子どもたちは、段差のある3つの跳び箱を腕の力でのぼって跳び越えたり、平均台に手をついて体を支え、両足をそろえて平均台を左右に跳び越したりといった活動に取り組み、腕で身体を支えたり跳ぶリズムを体得したり、跳び越えるタイミングや方法を学んだり、楽しみながら様々な身体の動きを体験していました。

そして、最後は開脚跳びにスペシャルチャレンジです。軽やかに跳ぶことができた子、あと一息の子など様々でしたが、全員が自分のめあてをしっかりと持って、積極的にチャレンジしていた姿がとても印象的でした。



子どもたちの9年間の学びを切れ目なくつなぐために、小・中学校の先生が一緒に授業を考えることは、とても大切なことです。授業に臨む子どもたちの表情も生き生きしていましたが、同時に、授業をしている先生、そして授業を参観し見守っている先生方の表情も生き生きしていました。